



下山パークパークは環境と自然と遊びのテーマパーク



(西三河支部)
株式会社 鈴 鍵
代表取締役社長
梅村 正裕 さん

今回は仕事にライフワークの研究
会活動に、また地域活動にも精力的
に取り組む、株式会社鈴鍵 代表取締
役社長 梅村正裕さんに、お忙しい中
お話を伺いました。

スケッチブックとサイン ペンを持って出張に

非常にお忙しい毎日を送っていらっ
しゃると伺いました、趣味を楽しむ
時間がなさそうですが…。

梅村 そうですね、じっくり腰を据
えてということはできませんが、私
の趣味は絵を描くことなので、ちょ
っとした時間でも楽しむことができ
ます。鞆の中にはいつも小さなスケ
ッチブックとサインペンを入れてい
ますから、例えば出張先などでホテ
ルに戻ってから、その日に印象に残
った風景などスケッチしています。

旅先でスケッチですか。絵を楽しま
れるのはいつ頃からですか？



梅村 以前は油絵をやっていました
が、時間的なこともあり水彩そして
サインペンとなりました。私はお酒
を飲まないのが、悩んだりイライラ
した時など細かい線でスケッチを
してストレス発散をしているんです。
描く時間がない時に印象的な風景と
出会ったりするとカメラに収め、時
間のある時に写真を見ながら描くこ
ともあります。



風景を描くことが多いですか？

梅村 そうですね、仕事柄、山へ行
くことが多いので、山、緑、自然な
風景は心を癒してくれるから大好き
です。例えば、家の中で喧嘩したり、
おもしろくない事があっても、自然
の中にいると些細な出来事と打ち消
してくれる、そして私に活力をくれ
るこの大きなフィールドが大好き
で、ついつい描いてしまいます。

山々の自然を次の世代へ

幼い頃から絵がお好きだったんですか？

梅村 私はもともとデザインの方面
を目指していて、色に非常に興味が
ありましたから、自然と絵には親し
んでいました。現在の会社に入り、
朝から夜まで山で仕事をする中で、
この山々の自然を、かけがえのない
森林を次の世代へ受け継いでいき
たいという気持ちも強くなり、現在
の趣味の形になりました。

絵を描き続けるというのはなかなか
できないですね。

梅村 そうですね、絵を描いてい
るとどうしても人の評価が気になっ
て描かなくなってしまうことが多い
ですが、私の場合はただ描くことが
好きだったんですね。そんな私の影
響でしょうか、娘も絵を描いていて、
日展にも入賞しました。

それはすばらしい娘さんですね。お
父様としても嬉しいでしょうね。



梅村 そうですね、画風は違いますが自分のことのように嬉しいです。また、私どもの会社には、画家を目指している社員がいます。絵を描くことで感性や感情のバランスを養っているのでしょうか、仕事にも好影響が出ているように感じます。



梅村さんは現在日本中を飛び回っていらっしゃいますよね。

梅村 昨日も北海道から帰ってきたところです。最近では世界中で環境の関心が高まっていますので、少しでもお役に立てればと走りまわっています。

会社の業務はもちろん、講演や地域活動に思いを込めていらっしゃいますが、それには何かきっかけがあったんですか？

梅村 年齢を重ねて、相談をする立場であった自分が、だんだん相談を受ける立場になってきました。そうすると無責任なことは言えません。思い切った決断が必要な時もあります。38歳の時に、相談にのっていた先輩から突然話しの途中で「今、君が話している内容に一つでも嘘があるのならば、今この時間は無駄になってしまう」と言われました。その言葉に非常に感銘を受け、それからの私の座右の銘は「虚心坦懐」となりました。自分が頑張って何かをやることによって家族が喜

ぶ、地域が喜ぶ、それが今の私の喜びです。

信念の具現化

そのお気持ちを具現化したものが下山パークパークですか？

梅村 全国をまわって多くの人たちと出会い、人の力の大きさ、大切さを実感しました。また、環境に対して、行動したくてもできない人もいることがわかりました。そこで仲間の気持ちなども合わせ、形にしたいと思ったのです。下山パークパークは環境と自然と遊びのテーマパークと考えています。『ウッドチップリサイクルシステム』やピオトープを通して、循環型社会に向けた“環境との共生”を実体験として学べるフィールドとして、また、リサイクル現場および活用事例の環境技術研修の場、子どもたちの自然体験学習、自然とふれあう憩いの場として、幅広く活用していただきたいと思っています。

沖縄の赤土流出対策や三宅島の噴火による被害地の緑化復旧、京都丹波の鳥インフルエンザ対策にも尽力され、次の世代に自然を受け継いでいきたいという強いお気持ちが形になっていらっしゃるんですね。



京都丹波の鳥インフルエンザ対策に尽力し、京都府知事から感謝状を授与される

梅村 矢作川沿岸水質保全対策協議会事務局長の故内藤連三氏の「人を感動させるものは言葉ではない、体験から得た信念である。良いと思ったらやってみろ！」という教えのもと、その教えを実践していきたいと思っています。

下山パークパークでは、地域で音楽や芸能活動をしている若手の皆さんにも発表の場を提供されているそうですね。

梅村 はい。一生懸命やっている若者にはいろいろな「場」を提供することが大切だと思っています。形は違っても、思いを貫いていくという点では私と共通していますし、地域の活性化にも繋がると考えています。

ご自分の信念をしっかりと見据え、家族や会社だけでなく地域、世界に目を向け活動をなさっている梅村さんのお話は、伺っているとワクワクしてきました。私たち一人ひとりが梅村さんのように「次の世代に自然を残したい」「緑に囲まれた世の中にしたい」という思いを強く持ったならば、きっと優しい世の中になるのではないかと感じました。今後の梅村氏のご活躍をお祈りいたします。本日はお忙しい中、ありがとうございました。